

21世紀COEプログラム委員会における事後評価結果

(総括評価)

設定された目的は十分達成された

(コメント)

拠点形成計画全体については、「平和のグランドセオリーの仮説」を構築し、全体を収斂統合方式により、仮説の検証を行い、大学の有する特色ある国際的ネットワークを活用し、国際シンポジウム、セミナーの中で十分討議を行い、東アジアの平和・安全・共生に対する政策提言を行い、高い評価を得ている。また、若手研究者の教育面でも、RF（COEリサーチ・フェロー）、RA（COEリサーチ・アシスタント）の制度を創設、活用し、博士号取得者を多数輩出し、十分なレベルに至っており、評価できる。

人材育成面については、RF、RAの制度や大学の国際的ネットワークを活用し、学際的、国際的研究活動の場が与えられ、課程博士を多数輩出し、国連関連諸機関、JICA（国際協力機構）などに若手実務家としての人材提供に貢献している。

研究活動面については、前半は個別分野の研究を進め、十分な蓄積となっており、後半のグランドセオリー仮説構築後は、検証に力を注いでいるが、個別分野を結ぶ点においては、若干、弱い点も見受けられる。仮説検証と東アジアの平和・安全・共生についての政策提言は国際シンポジウムなどで高い評価を得ており、相応の成果をあげたと評価できる。

補助事業終了後の持続的展開については、「広域平和研究」の実質的充実を本事業で確立できたが、持続性を担保するには大学全体としての制度的な取組み、あるいは新規プロジェクトの推進など積極的な取組を期待する。